

下着を選ぶスタッ フ女子二人 夜は とんでもない大乱 交

その居場所では、黒いズボンの太ももの
形がくっきりした

ムッチムチの女性が働いていた。

俺は特段エロいことを考えていたわけ
ではない。

爽やかに散歩をしたり風景を見たり

居場所の友達とラーメンを食べに行っ
たり・・・・・・・・

・・・・・・・・・・の日々だった。

いわば居場所の利用者。

仕事の合間に勉強を各々したり、

利用者同士でゲームをしたりする場所だ。

しかしそのスタッフは

女性ばかりであるのだが。

下着がミックスされている。

夜になれば

下着を交換し合っているのだ。

「あたしの今日のパンティ真っ白なんだからね」

入って3年目のミレイは先輩のサエナに言った。

「どこで買ったの？あたしの今朝のパンティは駅前の新しいレディース下着専門店で買ったよ」

「あたしのこれは通販。いいのがあったのっ！！」

そう言うとミレイはその場でジーンズを脱いで下着姿になった。

居場所のど真ん中。

不謹慎という感じでもない。

というのも、利用者も同様に遊んだり、
自由な場所だからだ。

俺はその姿や様子を横目でチラッと見るが

．．．．．自分のやることに専念した。

趣味でいろいろやっけていて、そのことについて調べ物を。

横で女子スタッフ二人がはしゃいでいる。

彼女たちは夜になれば互いの下着を交

換し合って穿き合うようで、そのことを
はしゃぎながら話している。

ちなみにその居場所から少しだけ離れた
場所にあるスーパー銭湯へも

女子たち同士で向ったりしているらしい。

女子たちは銭湯へ行って、

そこでもキャピキャピとみんなではしやぐようだが。。。。。

。。。。。。その様にとってもエツチらしいと、

利用者兼ボランティアもやっているリュウタくんが

鼻血を垂らしていた。

同僚で一人控えめな女の子がいて、

その子から銭湯プレイの様子を聞いた
ようだ。

女子たち二人だけでなく、他の同僚ともサウナなどに行ってはしゃいでいるようで、そのサウナの帰り道に彼女は一緒についていったようなのだが、

駅前の下着専門店に立ち寄ったらしい。

(体験版は以上になります。ご読了あり

がとうございました)